

五十瓊敷入彦命 宇度墓外堤護岸その他整備工事に伴う立会調査

はじめに 本墓は、大阪府泉南郡岬町淡輪に所在する（第77図）。全長約170mを測る前方後円墳として西方に位置する西陵古墳とともに淡輪古墳群の中核的存在である。淡輪古墳群は南を東西に延びる山塊から北に下る斜面地上にあり、本墓は主軸をおおむね東西に向けて築造されている（第78図）。

この度、漏水防止などを目的とした外堤護岸のほか渡土堤などの整備工事が実施されることに伴い、立会調査を実施したものである。調査は、平成24年11月7日～11月10日の間に本部職員と古市陵墓監区事務所職員により実施して、その他の工事期間中については古市陵墓監区事務所職員が随時立ち会った。

調査の所見 主に掘削を伴った調査箇所は、前方部側の渡土堤南側の範囲である（第78図、図版45-1、2）。墳丘と周濠が斜面地に位置する上に、上方に入水口があることから、そこから周濠内に多くの土砂が流入しており、現在陸地化しているような状況にあるため、堆積土除去工事をおこなった。

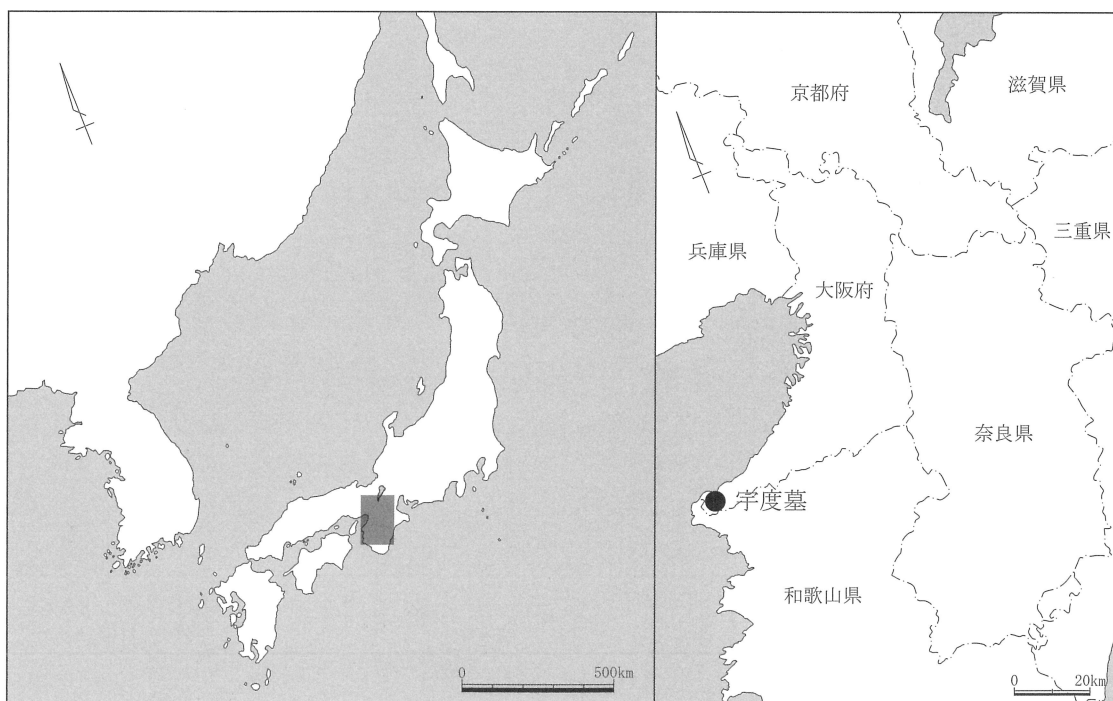
堆積土の除去範囲は東西約25m、南北約20mである。深さは、除去範囲内で標高の低くなっている渡土堤周辺がもっとも深く0.8mを測る。前方部前面の南端付近も堆積土除去箇所となるため、特に慎重に立ち会ったが遺構・遺物は確認されなかった。そのほか、墳丘から離れた範囲での掘削も含めて、いずれも近年流入した土砂の範囲内に収まっていた。

外堤護岸、渡土堤改修各箇所についても、遺構・遺物は確認されなかった。

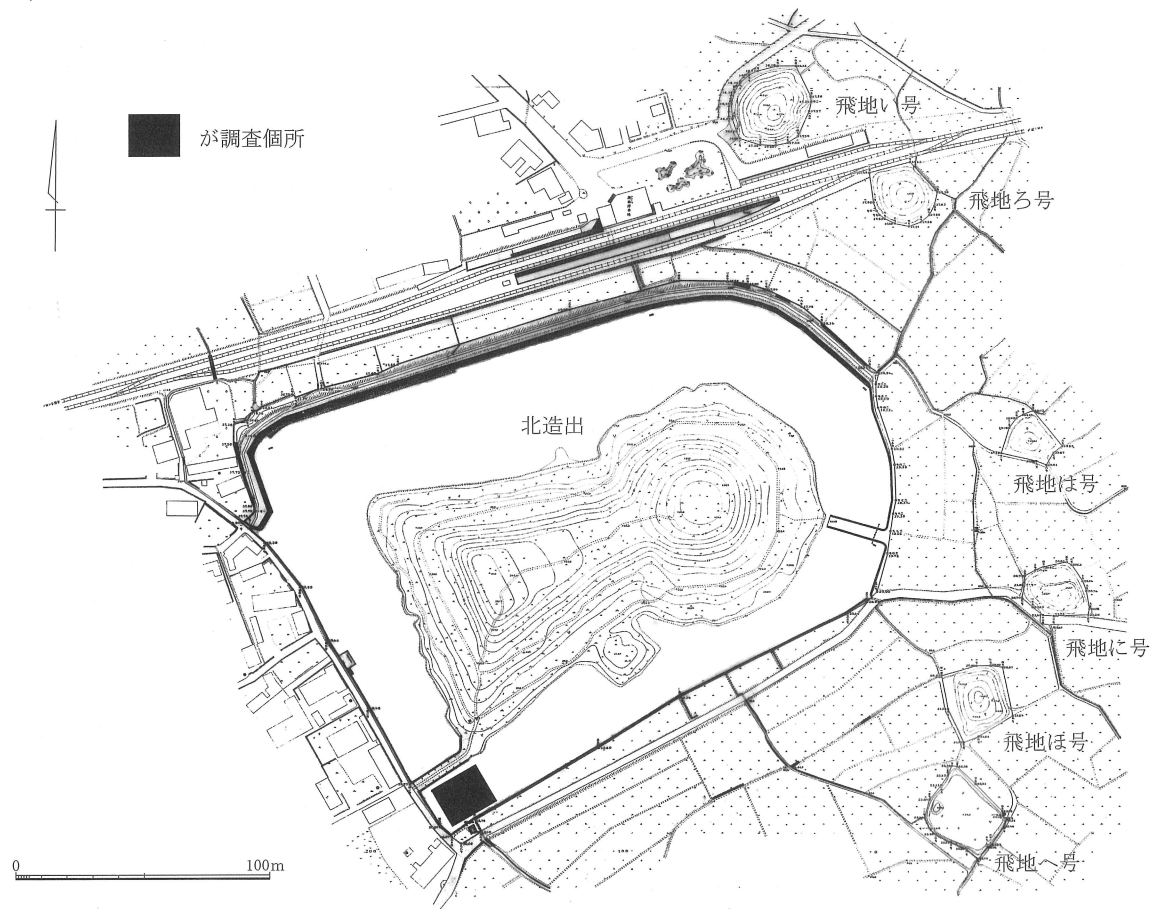
まとめ 主な掘削箇所は前方部側の渡土堤南側の範囲であったが、近年流入した土砂の範囲内に収まっており、遺構・遺物は確認されなかった。渡土堤改修箇所も遺構・遺物は確認されていない。外堤護岸は掘削を伴わない工法が採用された。調査では工事に支障となる問題点は認められず、予定どおり施工された。

遺物は、掘削箇所では確認されていない。しかし、工事に伴い落水した関係で、特に墳丘北側で転落した埴輪片が露出していることが判明したために、おおよその位置を記録しつつ採集した（図版45-3～8）。埴輪片の大半が従来知られていたとおり「淡輪型」の特徴をもつもので占められている。これらについては、今後整備工事に伴う事前調査がおこなわれた際に、出土遺物との接合関係等を確認したうえで、まとめて報告することとしたい。

（清喜裕二）



第77図 宇度墓 概略位置図（1/25,000,000、1/2,000,000）



第 78 図 宇度墓 調査箇所位置図 (1/3,000)



1 堆積土除去工事実施状況（北西から）



2 堆積土除去工事実施状況（北東から）



3 墳丘北側面（西から）



4 後円部北側面（北から）



5 北造出（北から）



6 北造出（東から）



7 北造出 大型石材集中箇所（北西から）



8 北造出 大型石材集中箇所（北西から詳細）